

アゲラツム

Flossflower



学名：Ageratum L. (アゲラツム)
科 目：Compositae (キク科アゲラツム属)
原産地：中南米

青紫やピンク、白の小花を7~10月にわたって次々と咲かせるアゲラツム。その名はギリシャ語で「老いを知らぬ」を意味し、いつまでも花色があせず長期間観賞できることにちなんでいます。原産地では多年草として野草化していますが、寒さに弱いため日本では春まきの一年草として栽培されています。

日本では、花の形が同じキク科のアザミに、葉の形がシソ科のカッコウに似ているところから、カッコウアザミの名で親しまれてきました。

現在、園芸用として多く流通しているのは、草姿や開花期の揃いがよく、性質が強くなったアゲラツム・ヒューストニアムという種が改良されたもの。草丈50~60cmの高性品種のほか、花壇の縁取りや小鉢仕立てに適した10~20cmの矮性品種があります。

栽培ポイント

👉 栽培

種まきの適期は3月下旬~5月下旬。発芽率がよく直まきも可能ですが、種子がたいへん細かいので、鉢まきや箱まきなどで育てた苗を定植する方法がおすすめです。このとき、覆土はごく薄くし、乾燥しないよう新聞紙などをかけておくと5~7日で発芽します。本葉が3~4枚になったらポットに仮植えするか、順次間引いて5月下旬~6月下旬に鉢もしくは株間25cmほどで花壇に定植します。ちなみに、発芽適温を守れば秋の種まきも可能で、鉢や苗床を室内で越冬させると2月下旬から花を楽しめます。

🌡 生育温度

高温・低温ともに苦手、適温は15~25℃。夜間冷え込む時期には、鉢や挿し床をフレームや室内に移して保温します。

👉 手入れ

下葉の枯れが目立つようなら、10cmほどの高さを残して刈り込むと、新しい枝を芽吹き



アゲラツム・ヒューストニアム 'フェアリー・ピンク'。花色がピンクから淡いピンクに変わります。

MEMO	👉 栽培：難易度 ★★★☆☆	🌸 開花時期：7~10月
	🌡 生育温度：15~25℃	🌾 収穫時期：-
	👉 手入れ：花がら摘みと刈り込み	📏 高さ：50~60cm (高性品種) 10~20cm (矮性品種)
	🏠 土：7:3 (赤玉土：腐葉土)	🍄 病気・害虫：アブラムシ

ます。花期が長いだけに花からはこまめに摘み取り、清潔な環境を保ちましょう。地植えでは、適宜間引きをして株間をあけるようにすると、生長を促進させることができます。

日照

日当たりのよい場所を好みますが、高温と過湿に弱いので、8~9月には日除けを施したり、鉢を半日陰に移すなどの配慮が必要です。

水やり

過度の水やりは、枝葉ばかりが茂って、花つきが悪くなるので注意が必要です。土の表面が乾いてから、たっぷりと水やりするとよいでしょう。

土

水はけさえよければ、とくに土質を選びません。地植えの場合は、庭や花壇が粘土質で水はけが悪ければ、赤玉土や腐葉土、あるいはピートモスを半量程度すき込んで土づくりをする必要があります。鉢植えの場合は、赤玉土7、腐葉土3の割合で混合したものをを用いるとよいでしょう。

肥料

元肥として、地植えの場合には1㎡当たり150~200gの緩効性化成肥料を、鉢植えでは一鉢当たりIB化成肥料3~5粒を与えます。ま

日本でも古くから栽培されているアゲラツム・コニゾイデス。現在主流のアゲラツム・ヒューストニアムに比べ、花の直径が4~8mmと小さいのが特徴です。



毛玉のような小さな花を咲かせるアゲラツムは、中南米のメキシコなどが原産地。現地では野草化したものが見られます。

た、開花期に月1回、1000倍に薄めた液体肥料を追肥として施します。

植えかえ

地植えの場合はとくに必要ありませんが、鉢植えの場合は鉢の根が詰まってきたら、ひとまわり大きい鉢に植えかえます。

殖やし方

実生のほか挿し芽でもかんたんに殖やせます。挿し芽は気温が15℃以上ならばいつでも可能。芽先を5~10cmに切ったものを川砂など水はけのよい挿し床に2~3cm挿しておく10日ほどで発根します。

購入アドバイス

苗は4月ごろ、鉢植えは7~10月ごろ出まわります。それぞれ、枝分かれしてたくさんの花つきが期待できるもの、節間の長すぎないしまったものを選びましょう。



「信頼」の花言葉をもつアゲラツム。長期開花させない花色は、まさに信頼に値するものです。



花径は1.5cm程度と小さめですが、1株にたくさんの花をつけるため、群生させるととてもにぎやかになります。

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
日照					日向				半日陰			日向	
水やり								ふつう					
肥料													
植えかえ													

病気対策と害虫防止

- 肥料が多すぎるとアブラムシが発生しやすいので要注意。見つけたら、オルトラン粒剤を散布すると有効です。

